



**【プラン・インターナショナル ユースグループ】**  
**女の子・女性に対する**  
**オンライン・ハラスメント調査発表と提言**

2020年10月9日(金)  
プラン・ユースグループ

**PLAN YOUTH GROUP**  
for Plan International

# 女の子と女性へのオンライン・ハラスメントの定義

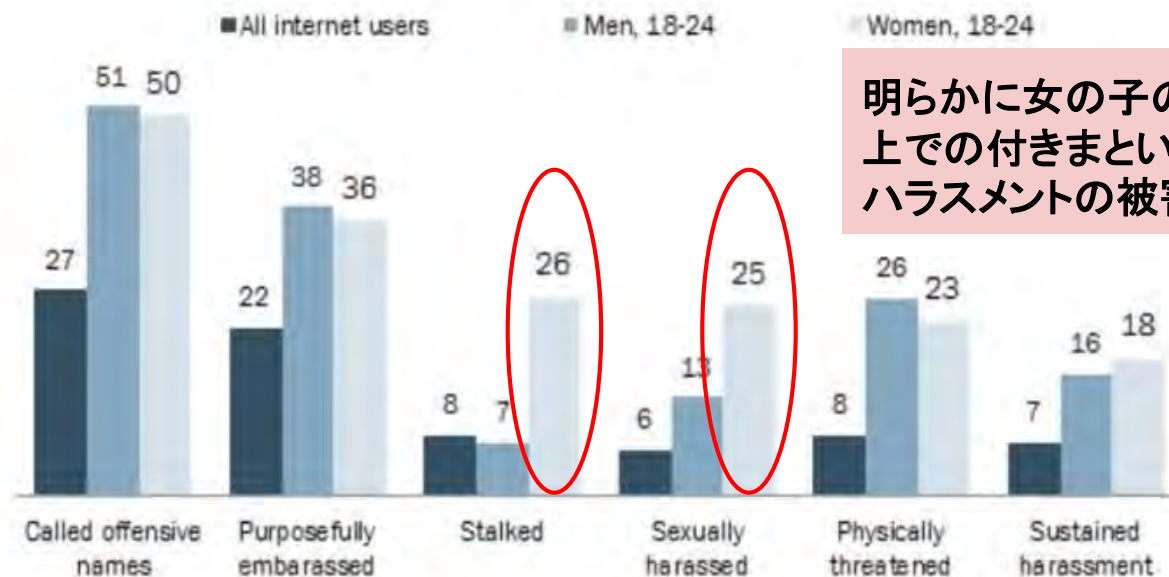
女の子と女性へのインターネット／モバイルテクノロジーを利用して実行される、ストーキング（付きまとい）、いじめ、ハラスメント、名誉きそん、ヘイトスピーチ、搾取、迷惑行為。

# 調査背景: 女の子・女性へのオンライン・ハラスメント

2015年の国連の報告書では、18～24歳の若年女性は、オンライン・ハラスメントの被害に遭うリスクがとて高いと指摘。

## Young women experience particularly severe forms of online harassment

Among all internet users, the % who have personally experienced the following types of online harassment, by gender and age...

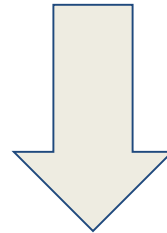


明らかに女の子の方がオンライン上での付きまといやセクシュアル・ハラスメントの被害経験が特に多い

# 調査目的

## オンライン・ハラスメント対策の現状

- ・ オンライン上でのハラスメントに関する認知度は低く、対策もほとんど取られていない
- ・ 被害の量的調査はいくつかあるものの、まだ詳しい実態は不明



## 目的

女の子・女性へのオンライン・ハラスメントの実態の  
解明、論点の整理、課題の発見

→問題を可視化し、社会全体で取り組むことを促す

# 調査方法

## アンケート調査

女の子と若い女性のオンライン・ハラスメントの経験について、31カ国1万4000人以上の女の子と若い女性に調査を実施した。日本では501名の若年女性(15～24歳)から回答を得た。

## インタビュー

オンライン・ハラスメントに造詣の深い有識者、政治家、インフルエンサー、アクティビストにインタビューを実施した。

## フォーカス・グループ・ディスカッション(FGD)

ユース世代(15～24歳)の女性と男性を対象に実施。計15名がディスカッションに参加した。

アンケート調査はプラン・インターナショナル国際本部が実施  
インタビューとFGDをプラン・ユースグループが企画・実施

# インタビュー概要

## 【有識者】

特定非営利法人ぱっぷす 金尻カズナ氏、岡恵氏  
認定NPO法人ヒューマンライツ・ナウ 伊藤和子氏

## 【政治家】

参議院議員 福島瑞穂氏

## 【インフルエンサー】

性教育YouTuberシオリーヌ氏

## 【アクティビスト】

一般社団法人Voice Up Japan 山本和奈氏

日程：2020年8月下旬～9月中旬

時間：約1時間 場所：Zoom

実施者：ユースグループメンバーおよびプラン・インターナショナル職員  
(計4名程度)

手法：事前作成の質問票をもとに実施

# フォーカス・グループ・ディスカッション(FGD)概要

【女性】 高校生女性、大学生女性 7名

【男性】 高校生男性、大学生男性 8名

日程：2020年9月6日(日)女性対象、9月12日(土)男性対象

時間：約1時間30分

場所：Zoom

実施者：ユースグループメンバーおよびプラン・インターナショナル職員(計6名程度)ユースグループメンバーはそれぞれのグループでファシリテーター、タイムキーパー、記録を務めた。

手法：対象者は事前に趣旨を説明し、参加者を募った。参加者は2～3人の小グループに分かれ、ディスカッションを実施した。

# 調査結果と提言

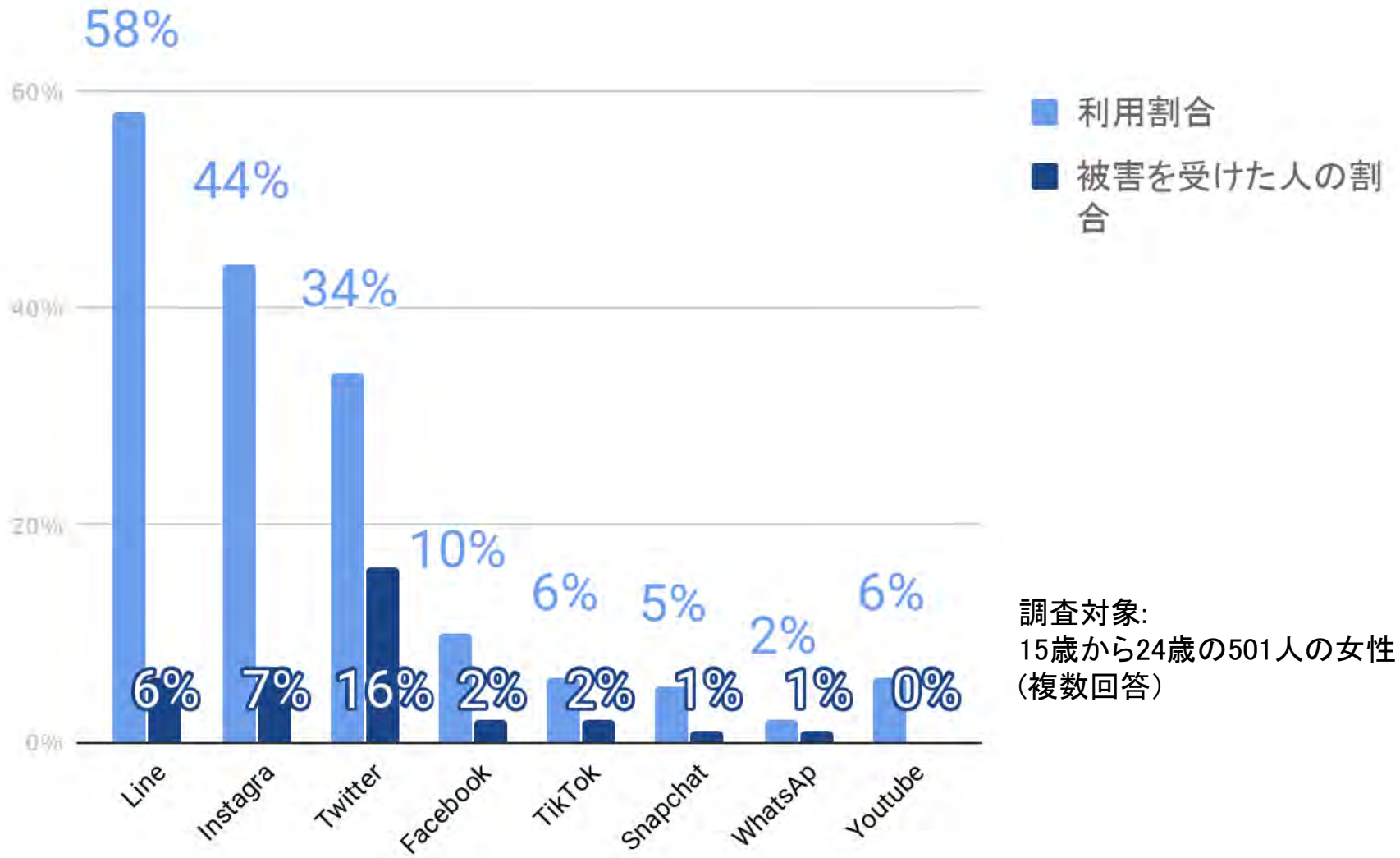
1. 実態
2. 影響
3. 原因
4. 調査で得られた改善案
5. ユースからの提言



# 1.実態

- 1) オンライン・ハラスメントの被害経験
- 2) 初めてオンライン・ハラスメントに遭った年齢
- 3) 若年女性のオンライン・ハラスメントの経験頻度
- 4) オンライン・ハラスメントの認知度と被害認識
- 5) ハラスメントの内容
- 6) 交差性とオンライン・ハラスメントの関連性
- 7) 加害者と被害者の関係性
- 8) 被害者を責める風潮

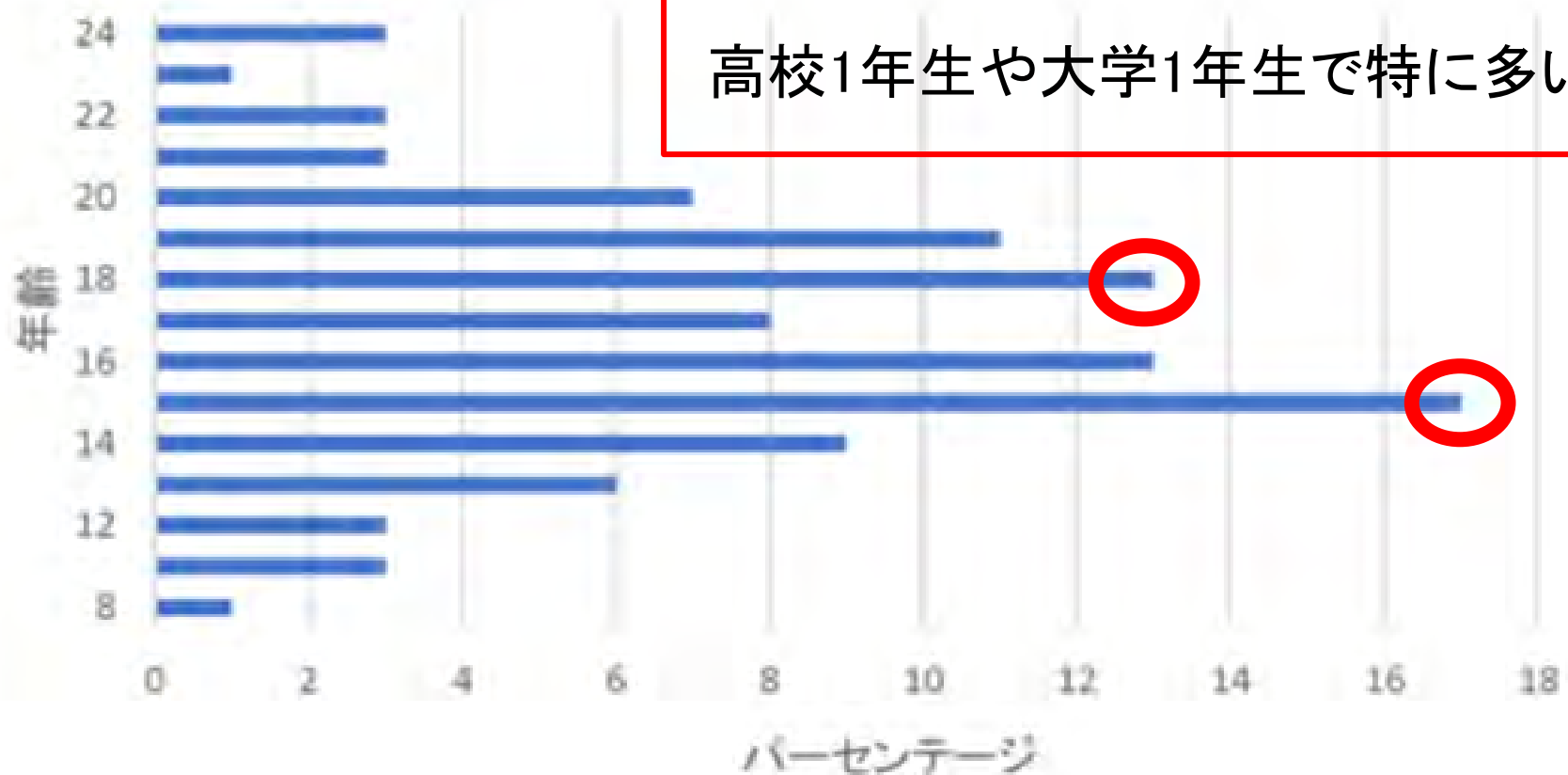
# 1) オンライン・ハラスメントの被害経験



出典: プラン・インターナショナル(2020)若年女性へのジェンダーを理由にしたオンライン・ハラスメントに関する調査結果 日本の調査報告書

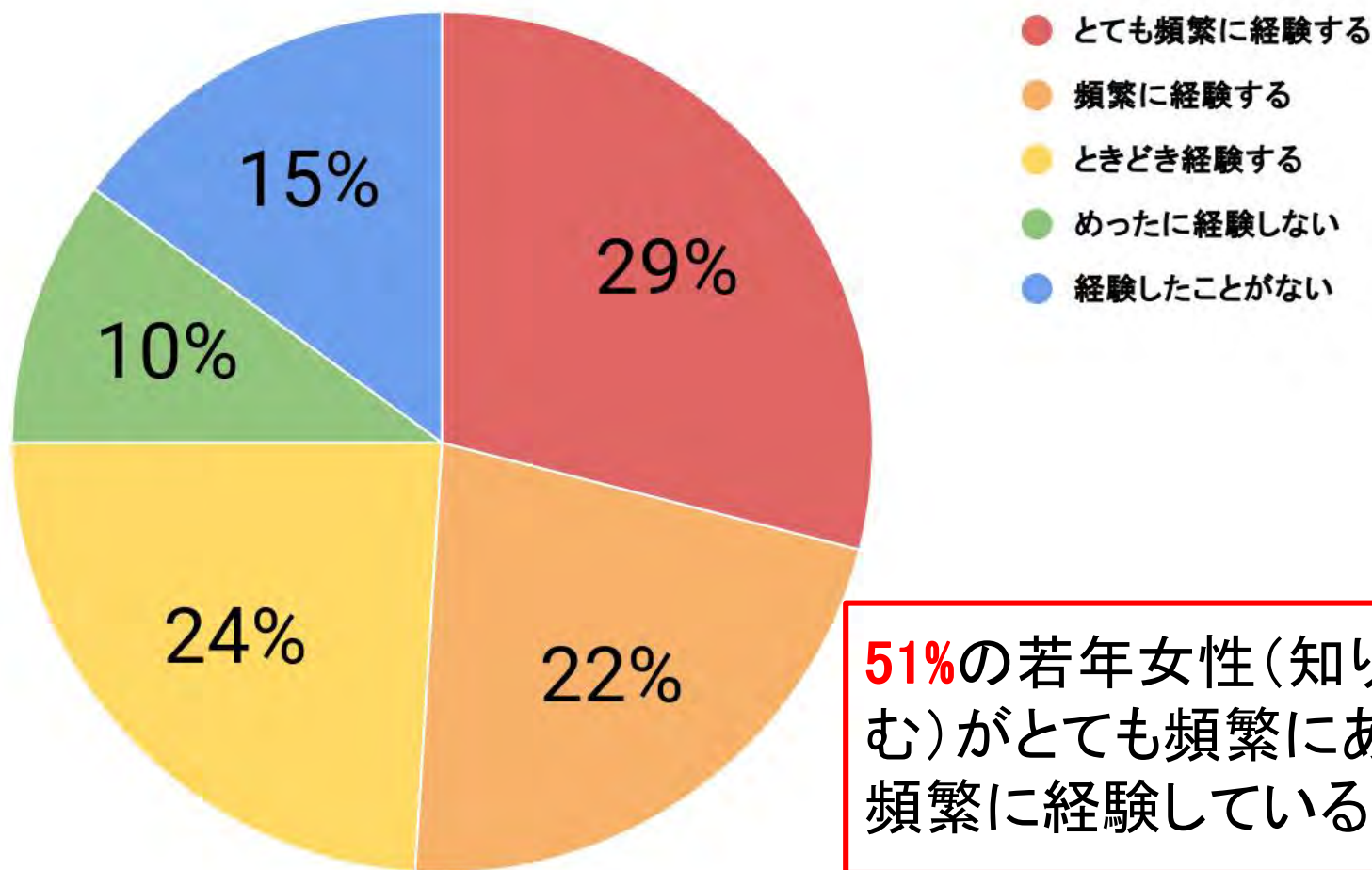
## 2) 初めてオンライン・ハラスメントに遭った年齢

調査対象:15歳から24歳の501人の女性



高校1年生や大学1年生で特に多い

### 3) 若年女性のオンライン・ハラスメントの経験頻度



**51%**の若年女性(知り合い含む)がとても頻繁にあるいは頻繁に経験していると回答

調査対象:15歳から24歳の501人の女性

## 4) オンライン・ハラスメントの認知度と被害認識

### FGD女性参加者

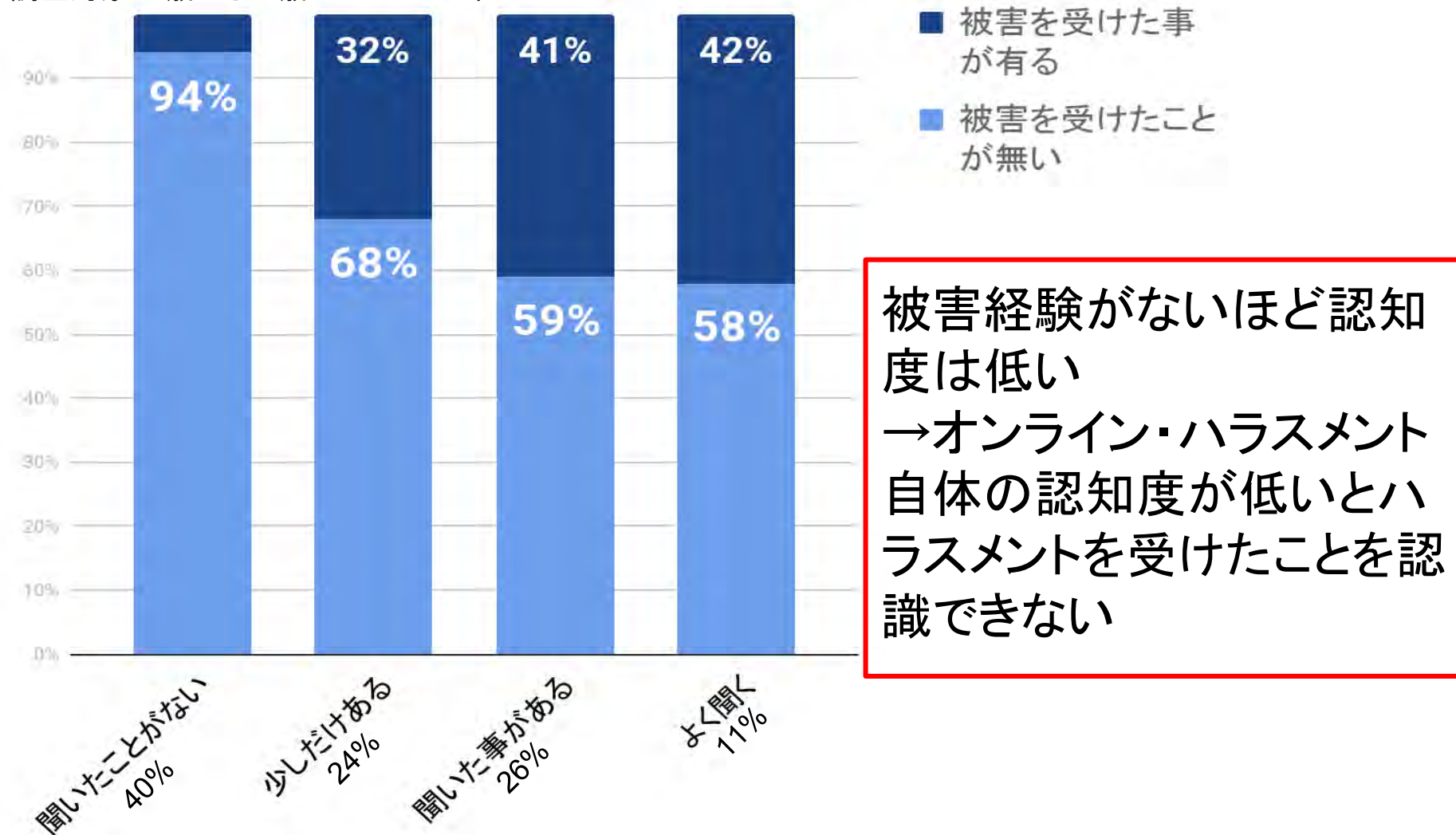
- オンライン・ハラスメントの認知度が低い
- **大人**が受けるものという認識・**芸能人などの目立つ人**や**新聞記者**などが多く被害を受けるものだと考えている
- ジェンダー・バイアス(固定観念)の押しつけなどは身近に起きていると感じている

### FGD男性参加者

- オンライン・ハラスメントについてのイメージがあまりない
- ハラスメントとそうでないものの**線引きが難しい**と考えている
- こうした女性蔑視やハラスメントは**日本の文化**であると諦めている

# 4) オンライン・ハラスメントの認知度と被害認識

調査対象:15歳から24歳の501人の女性



出典: プラン・インターナショナル(2020)若年女性へのジェンダーを理由にしたオンライン・ハラスメントに関する調査結果 日本の調査報告書

## 5) ハラスメントの内容

ぱっぷす 金尻氏、岡氏

- デジタル社会において、性的搾取の事案がすごく増えている
- **リベンジポルノや児童ポルノの被害相談も増えている**

シオリーヌ氏

- 性教育やフェミニズムなどに関して発信すると、バッシングをするのは男性が圧倒的に多く、**卑猥な言葉、画像を送られたりすることがある**

FGD女性

- **パパ活の誘いDM**がきたことがある
- インターン先で**オンラインツールによる暴言**を受けたことがある

# 自分自身もしくは知り合いの女の子が どうして被害に逢ったと思うか

調査対象:15歳から24歳の501人の女性(複数回答)

項目	割合(%)
スタイルや容姿	53
性的指向	45
性自認	21
人種または民族性	17
政治的見解	12
障がいの有無	12



## 6) 交差性とオンライン・ハラスメントの関連性

### オンライン・ハラスメントの被害経験率

調査対象: 15歳から24歳の501人の女性(複数回答)

	交差性を持つ 若年女性	交差性を持たない 女の子	その差 (%ポイント)
アジア太平洋地域	37%	19%	18
日本	47%	11%	36

交差性を持つ人ほど被害に遭いやすい

\* 交差性(intersectionality): 人種、民族、国籍、ジェンダー、階級、セクシュアリティなど、さまざまな差別の軸が組み合わさり、相互に作用することで独特の抑圧が生じている状況をさす。

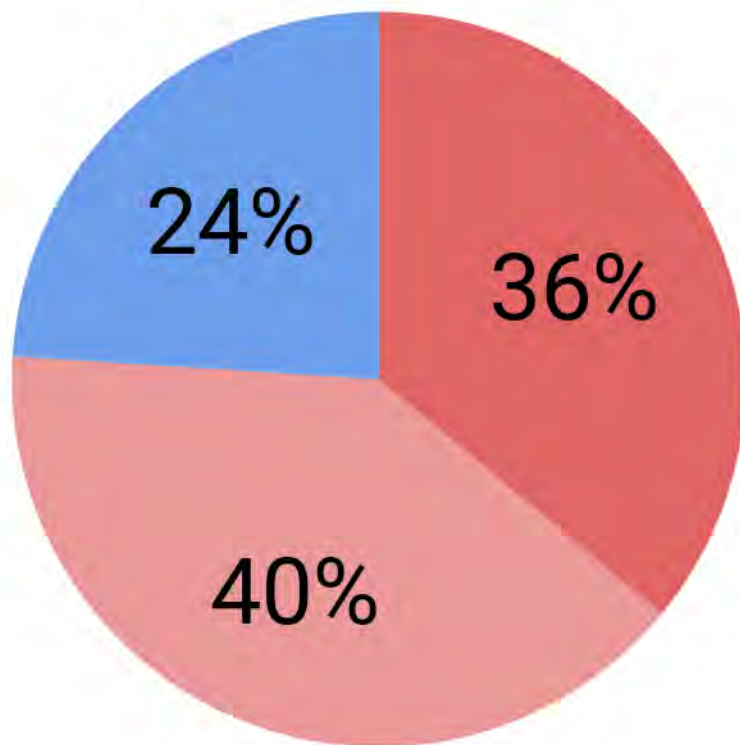
# オンライン・ハラスメントの種類

調査対象:15歳から24歳の501人の女性(複数回答)

若年女性が受けるオンライン・ハラスメントの種類	ときどき、頻繁にまたは、とても頻繁に体験した割合
侮辱的で虐待的な言葉	65%
セクシュアル・ハラスメント	61%
ボディ・シェイミング(体型批判)	59%
意図的な辱め	59%
人種差別的発言	58%
ストーキング(つきまとい)	53%
反LGBTIQ+発言	52%
身体的暴力の脅し	51%
性暴力をふるうという脅し	42%

# 一人の人が経験した オンライン・ハラスメントの種類の数

経験した種類の数



- 9種類すべて
- 複数種類
- 1種類

調査対象:15歳から24歳の501人の女性

## 7) 被害者と加害者の関係性

若年女性へのオンライン・ハラスメント加害者	%
友人	23%
SNS上の知人	16%
学校や職場の人	15%
現在または過去のパートナー	9%
つながりのない人	25%
匿名のSNSユーザー	23%
つながりのない人たちのグループ	10%

知り合い  
約**6**割

調査対象:15歳から24歳の501人の女性

## 8) 被害者が自分を責める風潮

- 「やっぱり本当に大勢からのバッシングを受けていると**私がおかしいの**かなって思ってくるんですよ」(シオリーヌ氏)
- 「社会として、ものすごく何か SNS を使ってるほうが悪いっていう言い方をしたり、**被害者を責める風潮にある**なと凄く感じて、そこに問題点を感じています」(山本氏)
- 「自分は悪くないし、受けてしまってそれで傷ついて SNS やめたいとか思っても、たぶんすごく**大事な**のは**自分が被害にあっても自分のせいだ**って絶対に思わないことだと思います」(山本氏)
- 「オンラインで受けたハラスメントをオンライン上の人に相談する事が多い。その中で適当なことや間違った事を言われてしまう。だからリアルの世界の大人が、**被害者自身は悪くない**こと・**周りは彼彼女らの味方である**という事を**伝え続ける**必要がある」(金尻氏、岡氏)
- 「被害者にも責任はあると思う」(FGD女性)  
→既に**被害者自己責任**の思考が身についてしまっている

## 2. 影響

- 1) 精神的苦痛、SNS利用への恐怖・忌避
- 2) 女性の発言や社会活動への萎縮効果

# 1) 精神的苦痛、SNS利用への恐怖、忌避

- 「被害を受けた後、コメント欄やツイートの**リプ欄を見るのが怖くなった**。嫌がらせをした人と対話を試みたこともあったが、**余計に傷つく**ことが多く、見ない・反応しないなどの方法を選ぶようになった」(シオリーヌ氏)
- 「Twitterは**(攻撃されて)疲れる**のでほとんど見ないようにして、アプリ自体を消した」(山本氏)
- 「**精神が不安定になり学校にも行けなくなる**と思う」「家に閉じこもるかも」(FGD女性)

被害の体験談→恐怖から**SNSの利用を制限**(一切使わない、鍵垢にする、連絡先の友達に限定)→オンライン・ハラスメントの氾濫が女の子、女性たちの自由なネット活動を制限している

# オンライン・ハラスメントによる影響

調査対象:15歳から24歳の501人の女性(複数回答)

効果	経験した人の割合(%)	対処方法	経験した人の割合(%)
精神的・感情的 ストレス	30	ハラスメントを無視し、 SNSの使用を継続する	32
自尊心の低下 自信の喪失	17	SNSの使用頻度を減らす	19
学校でのトラブル	14	自分の意見を述べる 投稿方法を変える	17
友だちや家族との トラブル	14	ハラスメントが起きたSNSの 使用をやめる	16
身体的に安全では ないという気持ち	8	自分の意見を述べる投稿を やめる	15
就職や雇用の継続 におけるトラブル	4	公開の場でハラスメント したユーザーに投稿する	5



## 2) 女性の発言や社会活動への萎縮効果

- 「若い女の子が社会の中にコミットしようとするときにやめようと思ってしまう。活動できなくなる」(福島氏)
- 「**周囲への萎縮効果**。女性差別的に関する意見を発する事へブレーキをかけてしまう」(伊藤氏)
- 「周りの女性の発言しようとする意思を妨げる。被害を受けた女性だけではなく、**就活や家族に影響がでるからなどと自分の意見をいうのをやめよう**という風になる(中略)自らの意見だけではなく、オンライン・ハラスメントの問題の提起もできなくなってしまう」(山本氏)
- 「オンラインでいわれると自分に言われていなくても自分が指摘されているように感じる。発言することに抵抗を感じる。(中略) **(萎縮効果) 男尊女卑を促進する**」(FGD女性)
- 「当事者の影響をみて、他の女性たちも嫌な気持ちになって社会進出とか表の舞台に立つのが嫌になって、**社会に全体的にマイナス**になっていくのかなと思います。」(FGD男性)

## 3. 原因

- 1) 現実社会における女性差別の再生産
- 2) 匿名性、顔が見えないコミュニケーション
- 3) 加害者自身の課題

# 1) 現実世界における女性差別の再生産

- 「女性へのオンライン・ハラスメントの大きな原因は**ミソジニー(女性嫌悪)**であり、社会全体として性差別的な要素を持っている。女性が声を挙げる事でジェンダー規範が乱れる事を不快に感じていると考えられる」(伊藤氏)
- 「社会の中の女性差別の表れだと思います」(福島氏)
- 「**意見を持つ女性に不満を感じる人が多い**のかなって感じている(中略)だからこそ女性がSNS上で問題提起をすると、意見を持つ女性に不満を持っているため、**発言を無効化(disqualify)しようとする**」(山本氏)
- 「女性の権利や安全を守るための発信をするために、日本に根付いている価値観だったり日本にずっと根付いている文化、システムに関するようなことに**何らかの問題提起をするようなことを(女性が)言う**と、**アンチフェミと言われる方々がたくさん(攻撃に)来る**」(シオリーヌ氏)

**マンスプレイング・マウンティング・男尊女卑** = 上から目線: 教えてあげよう・何も知らないくせに→特に若い女性に対して自分の支配下に置きコントロールしたい。新しい意見が怖い?

## 2) 匿名性、顔の見えないコミュニケーション

### 匿名性→加害行為が容易

- 「SNSにおいては匿名性が特徴(中略)SNSだと**自分は安全圏**にいて匿名で罵声を浴びせるということも可能なので、よりひどくなる」(福島氏)
- 「**匿名性を高く保ち誹謗中傷を行える**。(中略)そこにリツイートといった強力な拡散機能によって広がる」(伊藤氏)
- 「**個人情報特定されにくく、身元を隠せる**ので加害しやすい」(FGD女性)

### 非日常性→被害者の気持ちが見えにくい

- 「オンラインだから声をかけ放題(中略)加害者は**ゲーム感覚**で犯罪を行う」(金尻氏、岡氏)
- 「**顔の見えない**オンライン上ではハラスメントをすることへの**抵抗が少なくなる**」(FGD女性)
- 「SNS上で善悪の判断がつかない。匿名で自分に責任がない。**周りの賛同や扇動による判断力の低下**」(山本氏)
- 「オンラインだと**監視して止める人がいない**から隠れて加害しやすい」(FGD女性)

### 3) 加害者自身の課題

#### ストレスやコンプレックス

- 「**ストレス**や**孤独**が他者への攻撃に向かわせてしまうのではないか」(FGD女性)
- 「(物を知らない若い女性への)**鬱憤ばらし**。(中略)自分と違う見解をパワハラを使って消していく構造(=DVと同じ)」(福島氏)

#### 加害者の承認欲求

- 「**承認欲求**を得るための手段になっている」(FGD女性)
- 「**自分自身に不満**だったり、自分の行動を正当化したりしたいのが多いのかなと思います」(山本氏)

#### 加害者の無自覚

- 「特に男性はハラスメントやジェンダーについて話し合う機会が少なく、**無自覚**の加害や見て見ぬふりを行ってしまう」(FGD男性)

## 4. 調査で得られた改善案

# 調査で得られた改善案

## 自主規制／機能改善

- 国による規制ではなく、SNS各社が自発的に規制をかける
- SNSガイドラインにやってはいけないことを追記
- NGワード設定機能
- SNS利用ハードルの強化(アカウント作成の規制強化など)
- 通報機能の強化(通報機能の匿名性、ジェンダーに基づく暴力への対応、アイデンティティの交差性への配慮)

## プラットフォームとしての役割

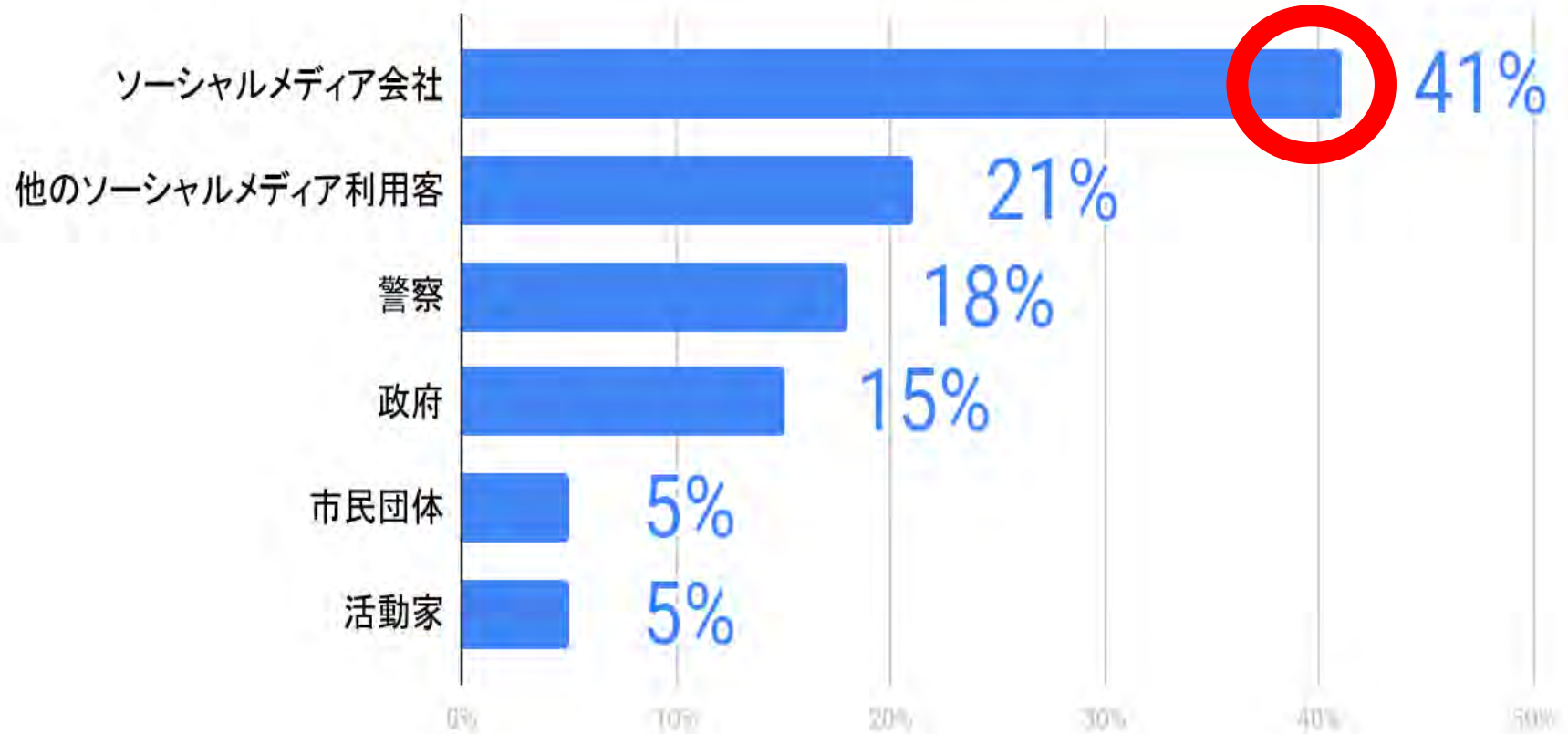
- 情報開示を迅速化し、被害者が泣き寝入りしないための環境整備
- 細分化されたデータの収集とその公開(ジェンダーに基づくオンライン・ハラスメントのさらなる実態把握のため)
- SNSの使い方の啓発
- 被害者への無料カウンセリング

## 5. ユースからの提言

- 1) ユースが変革を求める関係者
- 2) 一般社団法人ソーシャルメディア利用環境整備機構様へ
- 3) 関係する機関の皆様へ



# 1) ユースが変革を求める関係者



調査対象: 15歳から24歳の501人の女性  
(複数回答)

## 2) ソーシャルメディア利用環境整備機構様へ

1. オンライン・ハラスメントは**ジェンダーの問題**です。
2. オンライン・ハラスメントが及ぼす**深刻な影響を認識し、加害者をうまない啓発**をお願いします
3. **被害者に寄り添う**SNSプラットフォーム作りの検討をお願いします
4. **新しいルールやSNS機能**の作成と早期適用をお願いします

### 3) 関係する機関の皆様へ (内閣府、文科省、総務省、学校関係者)

1. **SNSの利用についての教育**を学校教育に組み込んでください。
2. SNSを利用する上で、無自覚に加害者にならないよう、**人権・ジェンダーに関する教育、包括的性教育**を学校教育に組み込んでください。
3. 被害者に向けての啓発だけでなく、**加害者への啓発**をさらに実施してください。